

第64回カルノ国際映画祭(スイス)、  
批評家週間部門  
「批評家週間賞・審査員スペシャル・  
メンション2011」受賞作品

第17回函館港  
イルミネーション  
映画祭2011  
正式招待

— 沖縄 宮古島に残る神歌と古謡。歌い継ぐ人々の深淵なるドキュメント —

# スケッチ・オブ・ミヤーク



歌うことは、神とひとつになること  
生きる願いは声となり、神へ届く  
魂のありか「<sup>宮古島</sup>ミヤーク」への旅

製作・監督・撮影・録音・編集＝大西功一  
原案・監修・整音＝久保田麻琴

出演者＝久保田麻琴／長崎トヨ／高良マツ／村山キヨ／盛島宏／友利サダ／本村キミ  
ハーニーズ佐良浜／浜川春子／譜久島雄太／宮国ヒデ／狩俣ヒデ／嵩原清／ほか

後援＝沖縄県・宮古島市・宮古島市教育委員会・エフエム沖縄・沖縄タイムス社・沖縄テレビ放送・

宮古新報・宮古テレビ・宮古毎日新聞社・ラジオ沖縄・琉球朝日放送・琉球新報社・琉球放送(順不同)

特別協賛＝特定非営利活動法人 美き島宮古島・日本トランスオーシャン航空株式会社・有限会社 宮古ビル管理(順不同)



公式サイト＝<http://sketchesofmyahk.com> 配給＝太秦



わたしはミャークの老人たちが羨ましい。  
 小さくても、こんなに完全で幸せな世界を持っているのだ。  
 汚れた世の中なんて気にかけてたこともないだろう。  
 彼らの表情を見て、このイカしたファンクを聞けば判る。  
 ミャークはきっと最高のところだろう。  
 賭けてもいいよ。

——ライクダー(音楽家/『フェナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』)

# スケッチ・オブ・ミャーク

鳴り止まない拍手と歓声。

第64回ロカルノ国際映画祭での快挙。

グランプリに次ぐ「批評家週間賞

審査員スペシャル・メンション2011」を受賞。

沖縄県宮古諸島には、沖縄民謡と異なる知られざる唄がある。「古謡」と「神歌」だ。厳しい暮らしや神への信仰などから生まれた唄は、宮古諸島に点在する村々でひっそりと歌い継がれ、特に御嶽での神事で歌われる「神歌」は、喜びと畏敬の念をもって、幾世紀にも渡り口伝されてきた。すべては音楽家の久保田麻琴が、島でそれら貴重な唄に出会ったことに始まる。そして素晴らしい歌群が絶滅の危機に瀕していることを知る。本作は歌を唄い継ぐ人々の暮らしを追うなかで、神と自然への畏れ、そして生きることへの希望を見出したドキュメンタリーだ。監督の大西功一は、秘められた島の神事を追い、生きることと信仰と唄がひとつだった時代を知る老人達と寄り添い、いまだ原初の姿が生きる奇跡の島、ミャークを鮮やかに投影した。

老婆達が神歌を唄う時、  
 不思議な懐かしさが  
 すべての人々の心を打つ

ミャークには、失われようとしている大切な「記憶」がある。老婆達は語る。かつて厳しい生活と信仰と唄が切り離せないひとつの時代があったことを。

神事の火は数世紀に渡り人から人へと受け継がれ、神女達は、生きる願いとともに「神歌」を捧げる…。2009年、九十歳を超えた老婆達が東京へと渡る。コンサートホールの舞台に立ち、「神歌」を歌うために。満場の観客を前に彼女らは力を振り絞り、歌う…。ミャークの「神歌」が一般聴衆に届いた最初の瞬間だ…。沖縄県宮古島、ミャーク。これほどまでに豊かな世界があったことへの衝撃、そして不思議な懐かしさがわたしたちの胸を打つ。



## 【沖縄 宮古島】

東京から南西に2040km、沖縄本島から南西に310km、台北から380kmのところに位置する人口およそ5万5千人の島。霊場である御嶽での神事は、島外の者には容易く触れることのできない神聖な行いとされてきた。また、薩摩支配下の琉球王府によって1637年から1903年まで課せられた「人头税」のため、人々は塗炭の苦しみを味わったとされる。



与国島

沖縄島



台湾

与那国島

西表島

石垣島

宮古島

製作・監督・撮影・録音・編集＝大西功一／原案・監修・整音＝久保田麻琴

出演者＝久保田麻琴／長崎トヨ／高良マツ／村山キヨ／盛島宏／友利サダ／木村キミ／ハーニース佐良浜／浜川春子／譜久島雄太／宮国ヒデ／狩俣ヒデ／嵩原清／ほか

デザイン＝有山達也＋岩湖恵子(アリアマデザインストア) 宣伝協力＝鎌田雄介／天久雅人／鶴場慶吾／サラーム海上 ©Koichi Onishi 2011 2011年/日本/カラー/HD/ステレオ/10.4分

公式サイト＝<http://sketchesofmyahk.com> facebook＝<https://www.facebook.com/MYAHK77> twitter＝@MYAHK77 配給＝太秦

- ◆森町/11月23日(金)14:30 開場 15:00 開演 アルボル・ハル小屋(茅部郡森町赤井川252) 問 090-5753-7148(田中)
- ◆函館/11月24日(土)開演①11:00 ②13:30 ③16:00 ④18:45(開場は各30分前) 函館市公民館(函館市青柳町12-17) 問 090-1308-8235(米田)
- ◆厚沢部町/11月25日(日)13:30 開場 14:00 開演 厚沢部町町民交流センターあゆみ(檜山郡厚沢部町新町181-6) 問 090-6699-0367(七尾)

[チケット]前売1200円 当日1500円 介助の必要な方は、介助者とペアで1200円 小学生以下無料